

研究ノート

受付：2024. 2.12
受理：2024. 3. 1

介護実践について考える
—健康科学部リハビリテーション学科介護学専攻の研究から—

久世 淳子

日本福祉大学 健康科学部

北村 真弓

日本福祉大学 健康科学部

丹羽 啓子

日本福祉大学 健康科学部

鈴木 俊文

静岡県立大学 短期大学部

武田 啓子

日本福祉大学 健康科学部

The practice of care
— Studies from the care work course Labo —

Junko Kuze

Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University

Mayumi Kitamura

Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University

Keiko Niwa

Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University

Toshifumi Suzuki

University of Shizuoka Junior College

Keiko Takeda

Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University

Keywords: 介護実践, 介護観, 介護過程

はじめに

介護学専攻では、介護観と介護実践の関連について研究を進めてきた。2016～2018年には「介護観が介護

実践に及ぼす影響—介護実践の構造化に向けて—（研究代表者：武田啓子）」というテーマで科学研究費の助成を受け、その成果は成果報告書¹⁾としてまとめられて

いる。報告書にもあるように一連の研究では、介護福祉士養成課程で学ぶ学生の介護観^{2) 3)}だけでなく、介護職員の介護観^{4) 5)}についても調査した。その結果、介護観は介護実践に影響を及ぼす促進因子の1つであることが示され、介護観や他因子をふまえて介護実践の構造化を試みた。この成果を受け、介護の質的向上に向けて「介護実践能力教育モデルの考案」というテーマで2019～2022年の科学研究費の助成を獲得している。諸般の事情により2021年度で補助事業は廃止となったが、その間も研究は続けられてきた。現在は、「介護学生の介護過程実践における「している活動」「できる活動」の情報収集プロセスに関する研究（以下、介護過程とする）」「4年制介護大学生の介護実践能力の修得に関する研究（以下、介護実践とする）」「学生の介護観形成プロセス・介護職員が考える介護実践能力に関する研究（以下、介護観とする）」の3つのグループに分かれ、研究を進めている。「介護過程」グループの研究成果は藤原ら⁶⁾、富田川ら⁷⁾、Mizutaniら⁸⁾、鈴木ら⁹⁾などで、「介護実践」グループの研究成果は北村ら¹⁰⁾、丹羽ら¹¹⁾などで、「介護観」グループの研究成果は藤原ら¹²⁾、Fujiwaraら¹³⁾、Kuzeら¹⁴⁾などで知ることができる。本稿では、「介護実践」グループの活動を紹介する。

介護実践グループの研究

「介護実践」グループでは介護観が介護実践に及ぼす影響を調べるため、①介護実践能力の定義や実践能力自己評価尺度の作成、②4年制大学の介護福祉士養成課程で学ぶ学生の介護実践能力の2つの検討を進めてきた。②については、2021年度から社会福祉士課程の変更にもなう新カリキュラム（以下、21新カリとする）に向け、4年次に訪問介護演習を試行実施する中で検証してきた。訪問介護演習を総まとめの介護実習と位置づけ、訪問介護演習そのものの評価¹⁰⁾に加え、2年次の介護実習Ⅲからの変化¹¹⁾についても検討してきた。一方で、介護実践能力の定義やそれを自己評価するような尺度についても検討しているが、統一的な定義や尺度は見当たらない。そのため、日本介護福祉士養成施設協会が策定した「介護福祉士養成における修得度評価基準（身につけておくべき能力・実践能力）」¹⁵⁾の検証からスタートすることとし、報告書作成に関わったメンバーから概要説明を受けた。この評価基準は7つのコアコンピテンシーと24の具体的能力（表1）からなる120の修得度評価基準であるが、実際に試行されていないなどの課題がある。そこで本研究グループでは、4年次の訪問介護演習終了時にこの120の修得度評価基準を試

表1 日本介護福祉士養成施設協会（2019）¹⁵⁾の7つのコアコンピテンシーと24の具体的能力

コアコンピテンシー	具体的能力
1.介護を実践するための基本能力	(1) 尊厳を保持し、自立を支援する能力
	(2) 対象となる人の権利を擁護する能力
	(3) 意思表示や意思決定を支援する能力
	(4) 支援に必要な人間関係を形成する能力
2.対象となる人を生活者として理解する能力	(5) 生活者を身体的・心理的・社会的・実存的側面から理解する能力
	(6) 生活者を取りまく環境を理解する能力
	(7) ライフサイクルの観点から生活者を理解する能力
3.心身の状況に応じた介護を実践する能力	(8) 対象となる人や家族をエンパワメントする能力
	(9) 対象となる人の日常生活や社会生活を支援する能力
	(10) 障害や認知症、慢性疾患などのある人を支援する能力
	(11) 介護予防やリハビリテーション、終末期などの状況に応じて支援する能力
4.多様な環境や状況に対応した介護を実践する能力	(12) 生活の場や家族形態・状況に応じて支援する能力
	(13) 安心・安全な生活環境を整える能力
	(14) 制度やサービスなどの社会資源を活用し、支援する能力
	(15) 災害などの非常事態に対応し、支援する能力
5.介護過程を展開する実践能力	(16) 対象となる人をアセスメントする能力
	(17) アセスメントに基づき介護計画を作成する能力
	(18) 根拠に基づき生活支援技術を適正に実践する能力
	(19) 実践を評価し、改善する能力
6.チームで働くための実践能力	(20) チームの一員としての役割を自覚し、協働する能力
	(21) 他の職種・機関などと連携する能力
7.専門職として成長し続ける能力	(22) 実践の中で研鑽を深め、研究する能力
	(23) 介護に関わる情報を発信する能力
	(24) 自身の健康を管理する能力

行実施することで課題などを抽出し、さらなる検討を進めることを考えた。詳細な結果の紹介については別の機会に譲るが、①修得度評価基準の信頼性や安定性、②実習前後での評価の変化などについて継続的に検討している。

今後の展望

検討を進めていく過程において、修得度評価基準の安定性だけでなく、訪問介護演習は半日と短いため自己評価しにくい項目があること、修得度を自己評価することなどの課題も見えてきた。一方で、「介護観」グループでは介護職員を対象とした介護実践能力についてのヒアリングを計画したが、感染症などの影響で実施できていない。将来的には学生だけでなく、介護職員を含めた介護実践能力について研究するグループへとメンバーを再編する必要性についても検討していく。21 新カリは 2024 年が完成年度となる。改めて、「介護実践」グループや「介護観」グループの研究から得られた知見を総括し、今後の研究の進め方についても考えていきたい。

謝辞：本研究の実施にあたり、退職された先生方をはじめ、介護学専攻の教育に係わっていただいたすべての先生方に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 武田啓子編集代表：介護観が介護実践に及ぼす影響－介護実践の構造化に向けて－。平成 28 (2016) 年～平成 30 (2018) 年度 科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) 研究成果報告書。(2019)
- 2) 丹羽啓子ら：福祉専門職の「援助観」に関する文献検討。日本福祉大学社会福祉論集, 141, pp95-102。(2019)
- 3) 水谷なおみら：介護観の形成に影響を与える因子に関する研究－介護福祉士養成課程で学ぶ大学生を対象に－。健康科学論集, 23, pp1-9。(2020)
- 4) 武田啓子ら：介護職員における介護実践と介護観との関連。介護福祉学, 26 (1), pp1-8。(2019)
- 5) 水谷なおみら：介護職員における介護観の特徴－質的調査の結果から－。健康科学論集, 25, pp13-20。(2022)
- 6) 藤原秀子ら：アセスメントにおける情報収集プロセス－「している活動」「できる活動」に着目して。令和 4 年度 日本介護福祉教育学会 第 28 回大会プログラム・発表要旨集, p72。(2023)
- 7) 富田川智志ら：「介護過程」教育における科学的介護の実践に向けた情報収集プロセスの課題。2023 年度 第 31 回 日本介護福祉学会大会抄録集, p43。(2023)
- 8) Naomi Mizutani ら：A Study on Information Gathering in Caregiving Process: Targeting Students at a Four-Year University in Japan. Mathews Journal of Nursing and Health Care, 5 (7) : 34。(2023)
- 9) 鈴木俊文ら：科学的介護の推進に対応した介護過程教育方法の検討－「している活動」から「できる活動」を捉えるあいまいさと ADL 評価。介護福祉教育, No55, pp44-53。(2024)
- 10) 北村真弓ら：介護大学生の 4 年次の訪問介護演習における学び学修状況の分析検討。健康科学部 FD 活動報告集, No.20, pp33-41。(2024)
- 11) 丹羽啓子ら：「介護実習Ⅲ」と「訪問介護演習」の自己評価をふまえた介護実践能力の修得状況の分析。健康科学部 FD 活動報告集, No.20, pp26-32。(2024)
- 12) 藤原秀子ら：介護福祉論の教育内容の検討－介護学専攻生と福祉工学科生を対象とした講義－。FD 推進を目指して, No.17, pp28-40。(2021)
- 13) Hideko Fujiwara ら：Development Process of Kaigokan among Japanese Students Studying Caregiving in A Four-Year College Degree Course: A Longitudinal Study. Mathews Journal of Nursing and Health Care, 4 (2) : 7。(2022)
- 14) Junko Kuze ら：Study on Kaigokan as autobiographical memory focusing on the directive function. International Journal of Psychology, Vol.58 Supplement1, p703。(2023)
- 15) 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会：平成 30 年度 生活困窮者就労準備支援事業費等補助金 社会福祉推進事業「介護福祉士養成課程における修得度評価基準の策定等に関する調査研究事業報告書」(2019)